

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建設システム工学概論Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		0004		科目区分	専門 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		建設システム工学科		対象学年	1		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材		授業中にプリント等を配布する。					
担当教員		加登 文学,尾上 亮介					
到達目標							
1.土木・建築と自然環境や景観との関係を理解する。 2.都市計画の基本的な考え方を理解する。 3.コンクリートや地盤の基本的な性質を理解する。 4.住宅設計の基本を理解する。 5.日本の国土計画の変遷と系譜について理解する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		土木・建築と自然環境や景観との関係を理解し、説明できる。		土木・建築と自然環境や景観との関係を理解している。		土木・建築と自然環境や景観との関係を理解していない。	
評価項目2		都市計画の基本的な考え方を理解し、説明できる。		都市計画の基本的な考え方を理解している。		都市計画の基本的な考え方を理解していない。	
評価項目3		コンクリートや地盤の基本的な性質を理解し、説明できる。		コンクリートや地盤の基本的な性質を理解している。		コンクリートや地盤の基本的な性質を理解していない。	
評価項目4		住宅設計の基本を理解し、説明できる。		住宅設計の基本を理解している。		住宅設計の基本を理解していない。	
評価項目5		日本の国土計画の変遷と系譜について理解し、説明できる。		日本の国土計画の変遷と系譜について理解している。		日本の国土計画の変遷と系譜について理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
(B) (F)							
教育方法等							
概要		建設(土木・建築)技術は人(個人, 市民)が生活する空間の整備に必要な技術である。これまでの安全・安心の確保と持続に加えて, 成熟した社会において市民の生活空間の快適さや魅力あるまちづくりを行うことのできる建設技術者となるために必要な基礎知識を学ぶ。					
授業の進め方・方法		毎週、授業中にその週で学習した内容のプリント課題に取り組む。 講義を中心に進めるが、授業中に模型制作なども行う。					
注意点		試験および授業中のレポートや発表等により成績を評価する。到達目標に基づき、各項目の到達度を評価基準とする。 教員名 尾上亮介、加登文学 研究室 A-306、A-215 内線電話 8963 8895 e-mail: onoe@maizuru-ct.ac.jp kato@maizuru-ct.ac.jp					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	環境と景観1		土木・建築と自然環境や景観との関係を理解する。		
		2週	環境と景観2		土木・建築と自然環境や景観との関係を理解する。		
		3週	環境と景観3		土木・建築と自然環境や景観との関係を理解する。		
		4週	都市計画		都市計画の基本的な考え方を理解する。		
		5週	都市計画		都市計画の基本的な考え方を理解する。		
		6週	土と地盤		コンクリートや地盤の基本的な性質を理解する。		
		7週	土と地盤		コンクリートや地盤の基本的な性質を理解する。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	コンクリート		コンクリートや地盤の基本的な性質を理解する。		
		10週	コンクリート		コンクリートや地盤の基本的な性質を理解する。		
		11週	建築論		住宅設計の基本を理解する。		
		12週	住宅プランニング		住宅設計の基本を理解する。		
		13週	住宅プランニング		住宅設計の基本を理解する。		
		14週	住宅プランニング		住宅設計の基本を理解する。		
		15週	国土と社会基盤		日本の国土計画の変遷と系譜について理解する。		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	1		
				技術者を目指す者として、社会での行動規範としての技術者倫理を理解し、問題への適切な対応力(どのように問題を捉え、考え、行動するか)を身に付けて、課題解決のプロセスを実践できる。	1		
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	1		

				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	1		
				社会性、社会的責任、コンプライアンスが強く求められている時代の変化の中で、技術者として信用失墜の禁止と公益の確保が考慮することができる。	1		
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	1		
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	1		
専門的能力	分野別の専門工学	技術史	技術史	歴史の大きな流れの中で、科学技術が社会に与えた影響を理解し、自らの果たしていく役割や責任を理解できる。	1		
		建設系分野	水理	文明社会と河川の利用について理解している。 河川の管理と整備について説明できる。	1 1		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0